東京都立産業技術高等専門学校

平成 25 年度「学生による授業評価アンケート」の結果について

１．はじめに

東京都立産業技術高等専門学校では、各教員の授業方法のスキルアップを目指す FD の一環として、平成 21 年度から「学生による授業評価アンケート」を行ってきました。5 回目となる本調査は本科及び専攻科の全授業を調査対象とし、ほぼ 100%に近い回収率となっていることから、授業に対する学生の評価結果として十分な調査となっております。本報告では平成 25 年度の報告に加え、平成 24 年度と平成 25 年度の各質問項目に対するアンケート結果の比較についても報告します。

２．アンケートの実施概要及び内容

（１） アンケートの実施概要

◎実施の趣旨：各教員の授業方法のスキルアップを目指す FD の一環として実施
◎調査対象　：本校教員の開講している本科及び専攻科の全授業（非常勤も含む）
◎実施形態　：学期の最後の授業時に学生にアンケートを実施
◎回 収 率　：ほぼ１００%に近い回収率

（２）アンケート内容

アンケートの質問内容

＜座学系＞

質問　１．授業時間外でもこの科目の勉強をするように努めた
質問　２．授業中、勉強をしやすい雰囲気があった
質問　３．講義の仕方が明瞭でわかりやすかった
質問　４．板書や掲示資料は見やすかった
質問　５．授業の中で授業内容、評価方法等(シラバス)についての説明があった
質問　６．授業内容や評価方法はシラバス通りに適切であった
質問　７．総合的にこの授業には満足できた
質問　８．教科書・指導書・プリントは役に立つ教材であった
質問　９．この授業によって、この科目に対する力がついた(達成感があった)
質問１０．教員は学生の方に視線を向けて話していた
質問１１．この授業によってその関連する教科に興味や必要性を感じることができた

＜実技実習系＞

質問　１．実技や実習に遅刻することなく積極的に取り組んだ
質問　２．実技や実習にふさわしい服装で臨んだ
質問　３．教員は装置や器具の使用方法を適切に指導していた
質問　４．提出した課題等に対して十分なコメントが返ってきた
質問　５．授業の中で授業内容、評価方法等(シラバス)についての説明があった
質問　６．授業内容や評価方法はシラバス通りに適切であった
質問　７．総合的にこの授業には満足できた
質問　８．教科書・指導書・プリントは役に立つ教材であった
質問　９．この授業によって、自分の技術力・能力が上がったと感じた
質問１０．教員は学生の方に視線を向けて話していた
質問１１．この授業によってその関連する教科に興味や必要性を感じることができた

回答方法

上記質問に対し、学生の皆さんには次の４段階評価で回答してもらいました。

① あてはまらない	② あまりあてはまらない	③ ややあてはまる	④ あてはまる
評価点数：（1 点）	（2 点）	（3 点）	（4 点）

（4 段階評価について）

昨年度と同様に授業評価がどちらよりであるのかを明確にする趣旨により、中間点をあえて設定しないで４段階での評価法を導入しました。

（アンケートの実施形態）

アンケートは、授業を担当する教員が学期末の最後の授業時に自ら実施し、回収して教育企画改善室に提出する手法をとりました。

（３）　各教員へのアンケート結果の報告方法

アンケート結果の集計は、教育企画改善室が行い、各教員への通知を行いました。

３．本科アンケート結果

（１）　各質問に対する評価点数の平均値

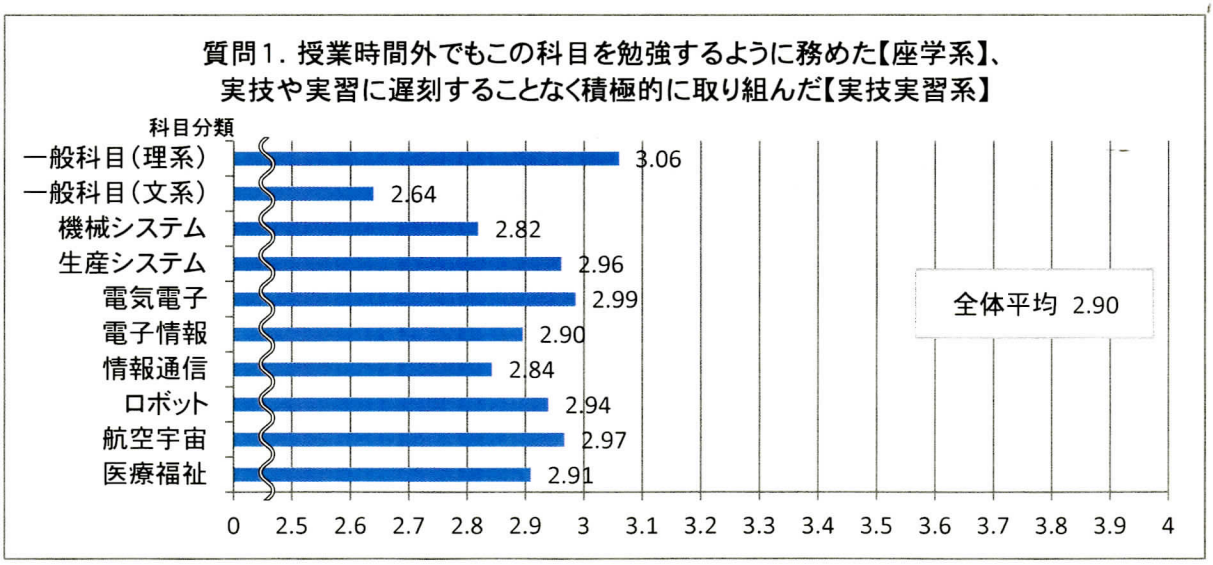
図１は各質問に対する科目分類ごとの評価点数の平均値をあらわしています。図１からわかる特徴としては、質問 1「授業時間外でもこの科目を勉強するように努めた【座学系】、実技や実習に遅刻することなく積極的に

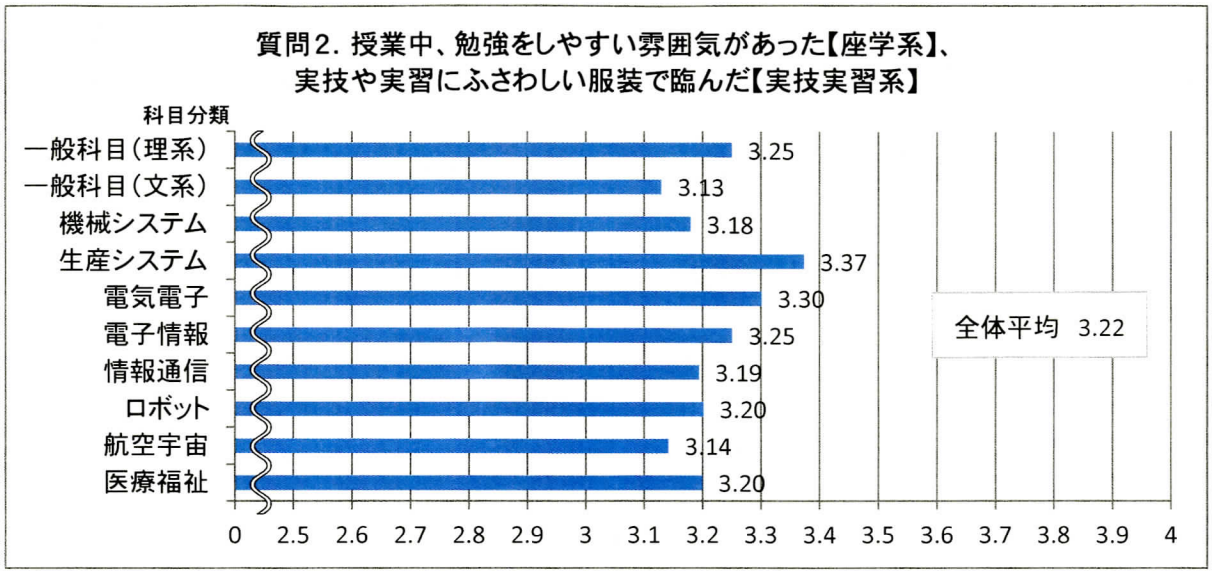
取り組んだ【実技実習系】」、質問 9「この授業によって、この科目に対する力がついた(達成感があった)【座学系】、この授業によって、自分の技術力・能力が上がったと感じた【実技実習系】」に対する平均値が低いということがあげられます。質問 1 は授業時間内外での学生の勉強意欲を表すものであるため、学生の学習意欲を高める工夫が各教員にとって必要であると考えられます。質問 9 は、学生の科目修得に対する達成感を表しているため、授業時間内での学生の能動的学習（問題を自ら解く等）の大小の影響が出てきている可能性があると考えられます。一方で質問１、質問９に対する一般科目（理系）の平均値は他の科目分類の授業の平均値と比べると高くなっています。この理由としては、一般科目（理系）の授業では、授業中に学生が問題を多く解き学生の理解を深めるなど能動的学習の機会が多く提供され、授業時間内における勉強に向かった実感や達成感が高いことが考えられます。

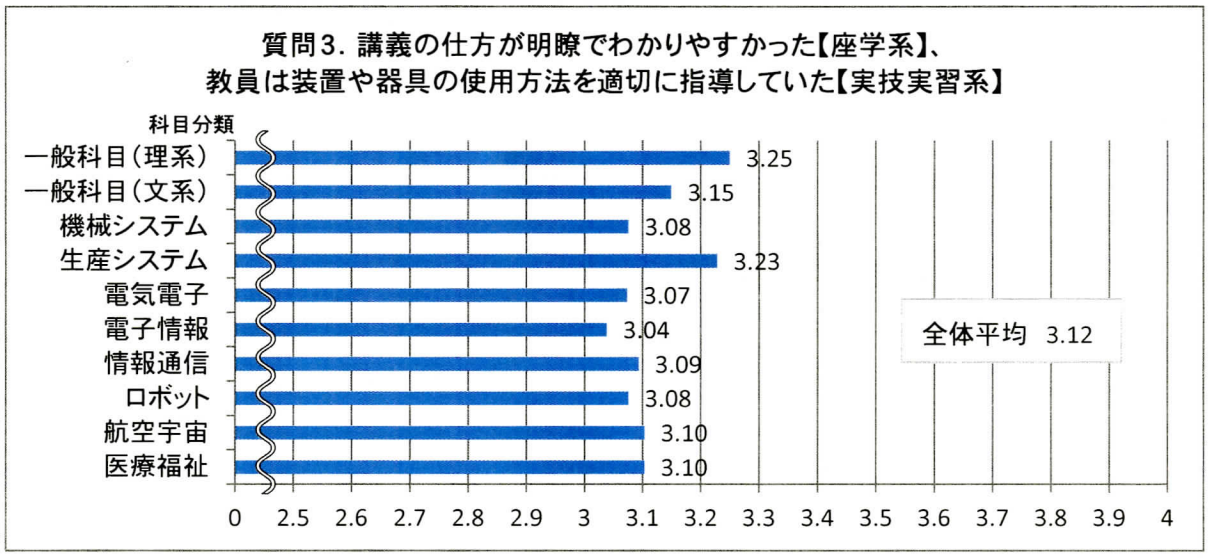
また、質問１と質問９以外で全質問の平均値を下回ったのは質問３「講義の仕方が明瞭でわかりやすかった【座学系】、教員は装置や器具の使用方法を適切に指導していた【実技実習系】」と質問４「板書や掲示資料は見やすかった【座学系】、提出した課題等に対して十分なコメントが返ってきた【実技実習系】」、質問７「総合的にこの授業には満足できた」、質問 11「この授業によってその関連する教科に興味や必要性を感じることができた」となっています。この結果から、授業内容にわかりにくい点があると、学生のその授業に対する満足度が下がり、関連する教科への興味や必要性さえも感じなくなってしまう傾向があることが読み取れます。各教員はわかりやすい授業を行うよう、工夫する必要があると考えられます。

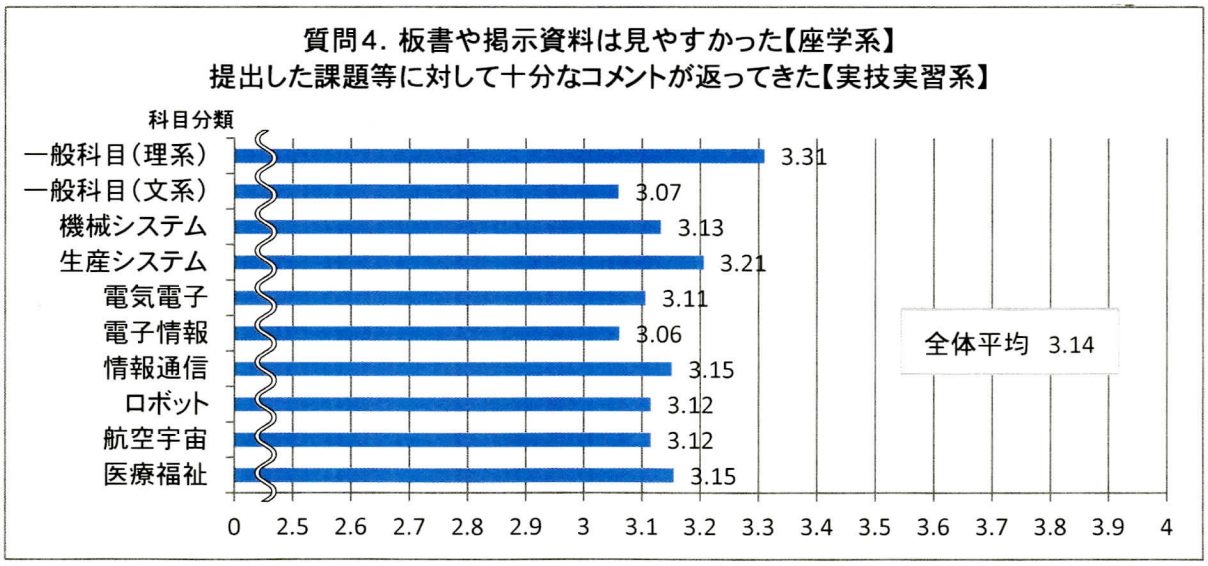
最も平均値が高かったのは質問５「授業の中で授業内容、評価方法等（シラバス）についての説明があった」であり、この項目は本校では毎年高い評価点を得ています。また、質問５と同様に質問６「授業内容や評価方法はシラバス通りに適切であった」はシラバスに関するアンケート内容ですが、どの科目分類においても高い評価点を得ています。

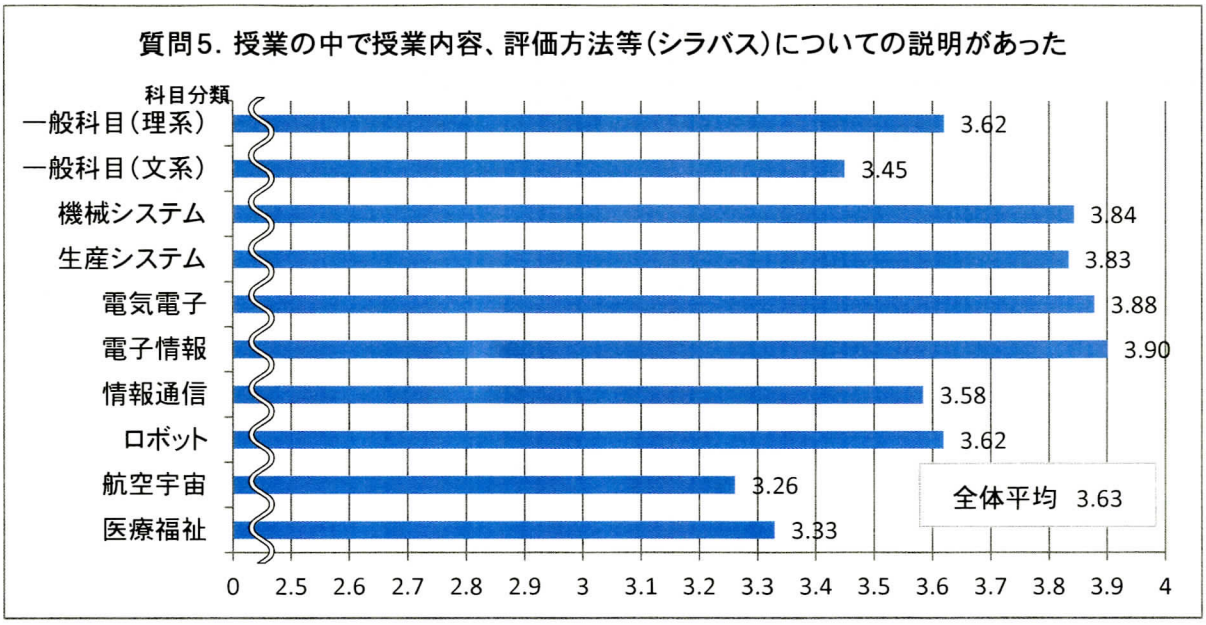
図１：各質問に対する評価点数の平均値（本科）

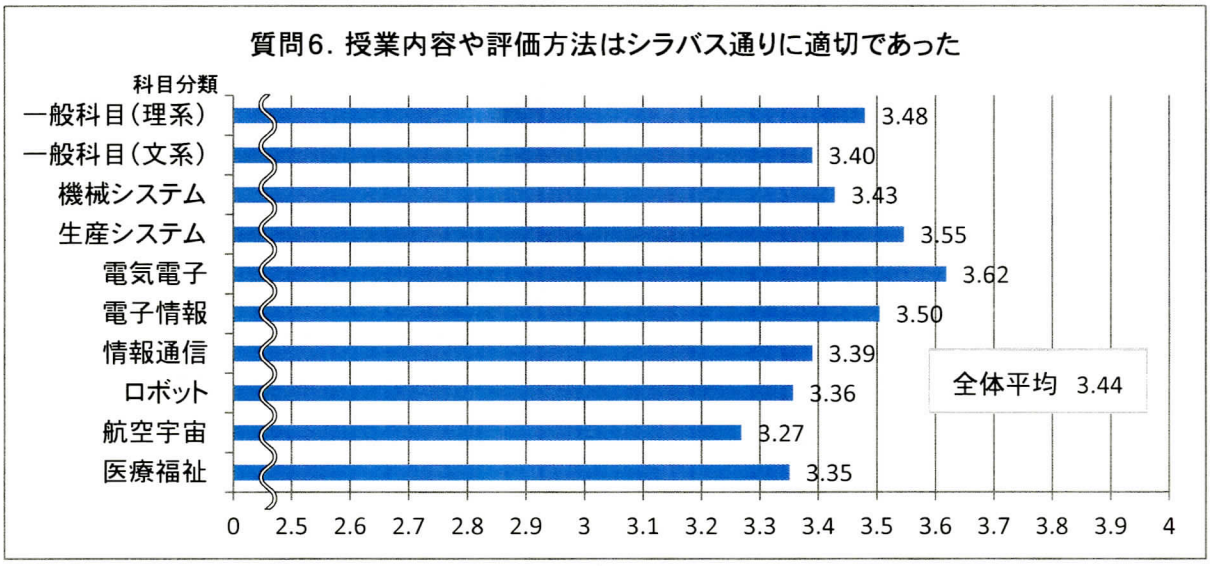


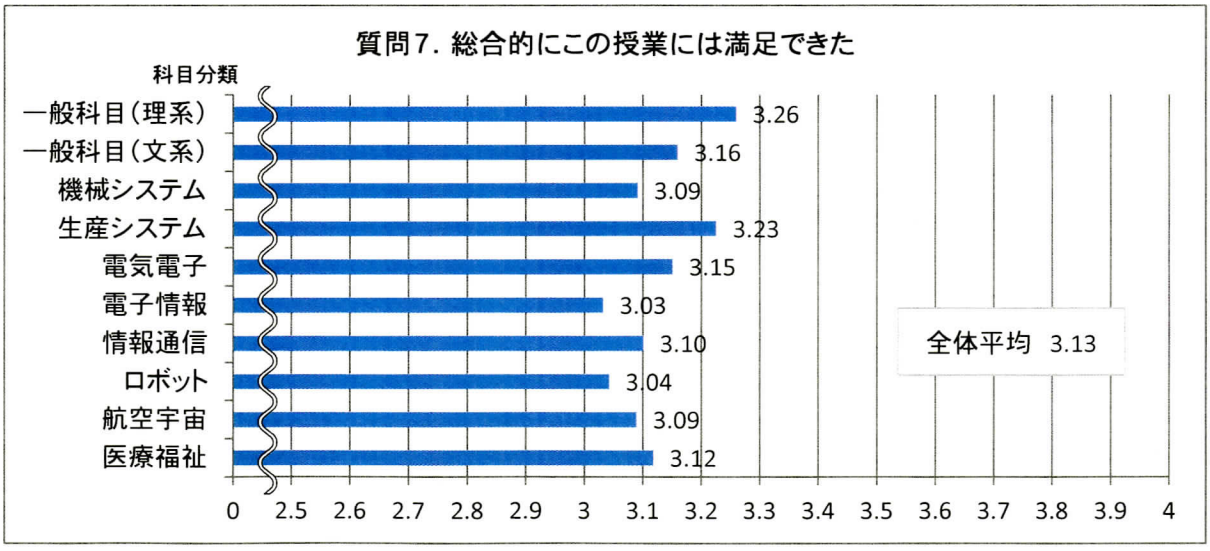

質問2. 授業中、勉強をしやすい雰囲気があった【座学系】、
実技や実習にふさわしい服装で臨んだ【実技実習系】
科目分類
一般科目(理系) 3.25
一般科目(文系) 3.13
機械システム 3.18
生産システム 3.37
電気電子 3.30
電子情報 3.25
情報通信 3.19
ロボット 3.20
航空宇宙 3.14
医療福祉 3.20
全体平均 3.22
0 2.5 2.6 2.7 2.8 2.9 3 3.1 3.2 3.3 3.4 3.5 3.6 3.7 3.8 3.9 4

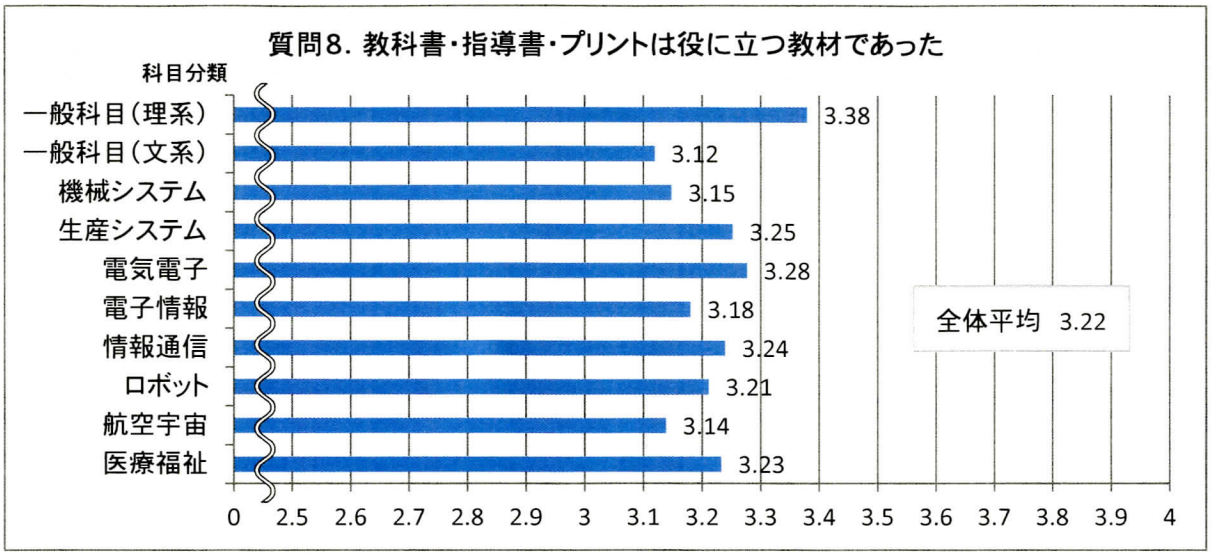

質問3. 講義の仕方が明瞭でわかりやすかった【座学系】、
教員は装置や器具の使用方法を適切に指導していた【実技実習系】
科目分類
一般科目(理系) 3.25
一般科目(文系) 3.15
機械システム 3.08
生産システム 3.23
電気電子 3.07
電子情報 3.04
情報通信 3.09
ロボット 3.08
航空宇宙 3.10
医療福祉 3.10
全体平均 3.12
0 2.5 2.6 2.7 2.8 2.9 3 3.1 3.2 3.3 3.4 3.5 3.6 3.7 3.8 3.9 4

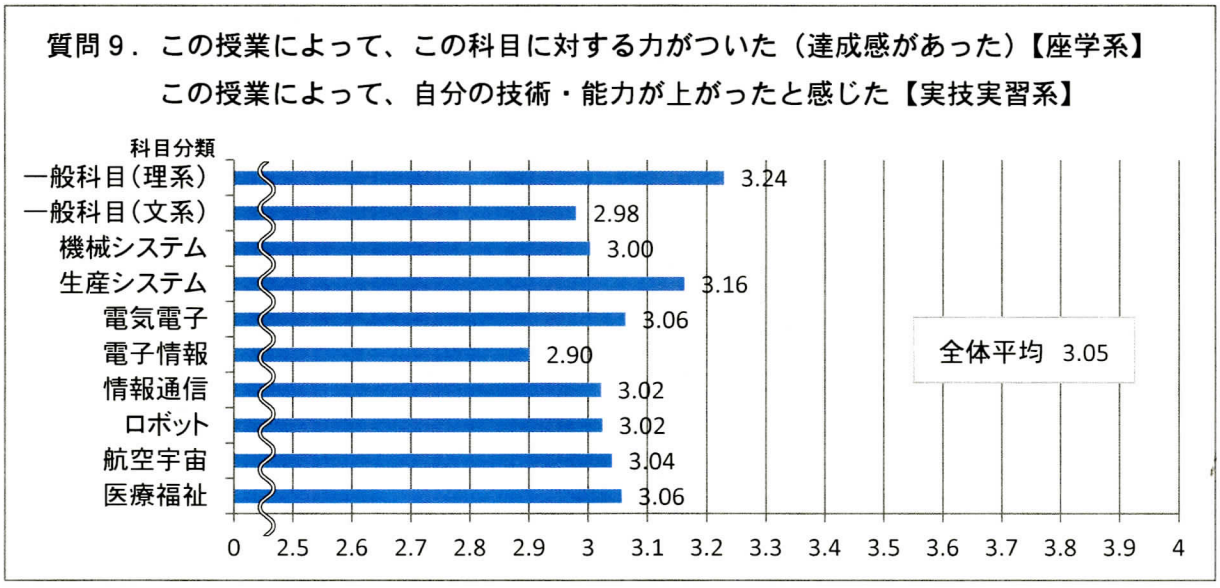

質問4. 板書や掲示資料は見やすかった【座学系】
提出した課題等に対して十分なコメントが返ってきた【実技実習系】
科目分類
一般科目(理系) 3.31
一般科目(文系) 3.07
機械システム 3.13
生産システム 3.21
電気電子 3.11
電子情報 3.06
情報通信 3.15
ロボット 3.12
航空宇宙 3.12
医療福祉 3.15
全体平均 3.14
0 2.5 2.6 2.7 2.8 2.9 3 3.1 3.2 3.3 3.4 3.5 3.6 3.7 3.8 3.9 4

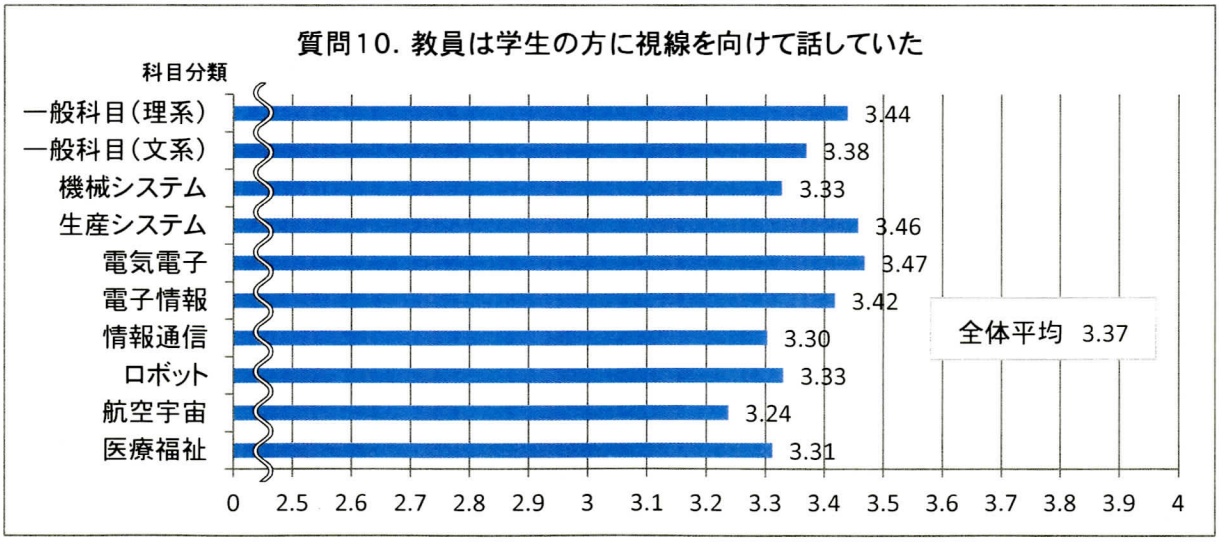

質問5. 授業の中で授業内容、評価方法等(シラバス)についての説明があった
科目分類
一般科目(理系)
一般科目(文系)
機械システム
生産システム
電気電子
電子情報
情報通信
ロボット
航空宇宙
医療福祉
3.62
3.45
3.84
3.83
3.88
3.90
3.58
3.62
3.26
3.33
全体平均 3.63
0 2.5 2.6 2.7 2.8 2.9 3 3.1 3.2 3.3 3.4 3.5 3.6 3.7 3.8 3.9 4

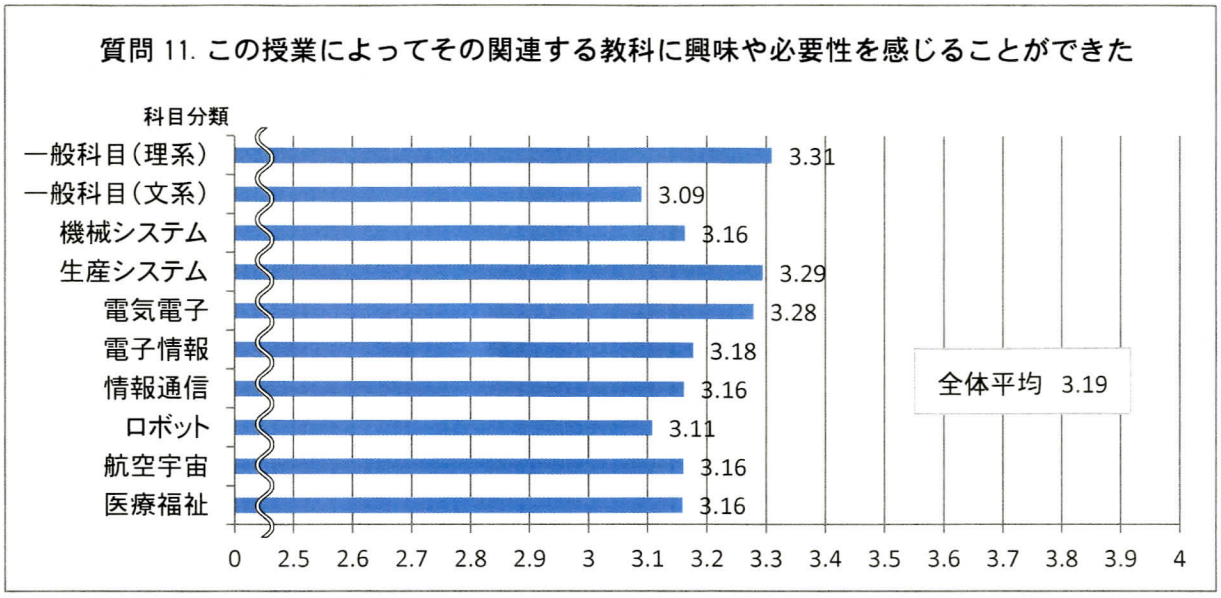

質問6. 授業内容や評価方法はシラバス通りに適切であった
科目分類
一般科目(理系)
一般科目(文系)
機械システム
生産システム
電気電子
電子情報
情報通信
ロボット
航空宇宙
医療福祉
3.48
3.40
3.43
3.55
3.62
3.50
3.39
3.36
3.27
3.35
全体平均 3.44
0 2.5 2.6 2.7 2.8 2.9 3 3.1 3.2 3.3 3.4 3.5 3.6 3.7 3.8 3.9 4


質問7. 総合的にこの授業には満足できた
科目分類
一般科目(理系)
一般科目(文系)
機械システム
生産システム
電気電子
電子情報
情報通信
ロボット
航空宇宙
医療福祉
3.26
3.16
3.09
3.23
3.15
3.03
3.10
3.04
3.09
3.12
全体平均 3.13
0 2.5 2.6 2.7 2.8 2.9 3 3.1 3.2 3.3 3.4 3.5 3.6 3.7 3.8 3.9 4


質問8. 教科書・指導書・プリントは役に立つ教材であった
科目分類
一般科目(理系) 3.38
一般科目(文系) 3.12
機械システム 3.15
生産システム 3.25
電気電子 3.28
電子情報 3.18
情報通信 3.24
ロボット 3.21
航空宇宙 3.14
医療福祉 3.23
全体平均 3.22
0 2.5 2.6 2.7 2.8 2.9 3 3.1 3.2 3.3 3.4 3.5 3.6 3.7 3.8 3.9 4


質問９．この授業によって、この科目に対する力がついた（達成感があった）【座学系】
この授業によって、自分の技術・能力が上がったと感じた【実技実習系】
科目分類
一般科目(理系) 3.24
一般科目(文系) 2.98
機械システム 3.00
生産システム 3.16
電気電子 3.06
電子情報 2.90
情報通信 3.02
ロボット 3.02
航空宇宙 3.04
医療福祉 3.06
全体平均 3.05
0 2.5 2.6 2.7 2.8 2.9 3 3.1 3.2 3.3 3.4 3.5 3.6 3.7 3.8 3.9 4

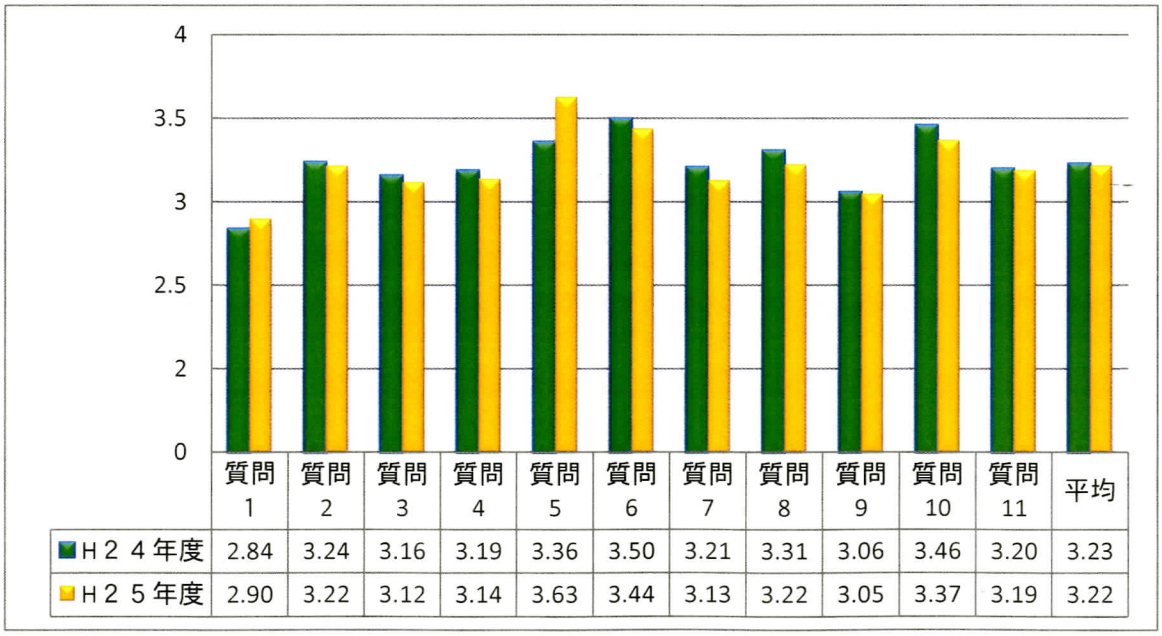

質問10. 教員は学生の方に視線を向けて話していた
科目分類
一般科目(理系) 3.44
一般科目(文系) 3.38
機械システム 3.33
生産システム 3.46
電気電子 3.47
電子情報 3.42
情報通信 3.30
ロボット 3.33
航空宇宙 3.24
医療福祉 3.31
全体平均 3.37
0 2.5 2.6 2.7 2.8 2.9 3 3.1 3.2 3.3 3.4 3.5 3.6 3.7 3.8 3.9 4



（2）平成 24 年度と平成 25 年度のアンケート結果の比較

図 2 は、平成 24 年度と平成 25 年度の各質問に対する全科目分類の評価点数の平均値の比較を表したものです。図 2 を見ると、平成 25 年度の平均値は、多少のバラつきはあるものの、概ね平成 24 年度の平均値とほぼ同水準であることがわかります。このことから、FD の一環として教育企画改善室で行ってきた「授業評価アンケート」や「教員間の授業公開」、「各種研修事業の開催」等は、教員の授業力を維持、向上させる一助になっていると判断することができます。

図 2．平成 24 年度と平成 25 年度の評価点数の平均値の比較（本科）

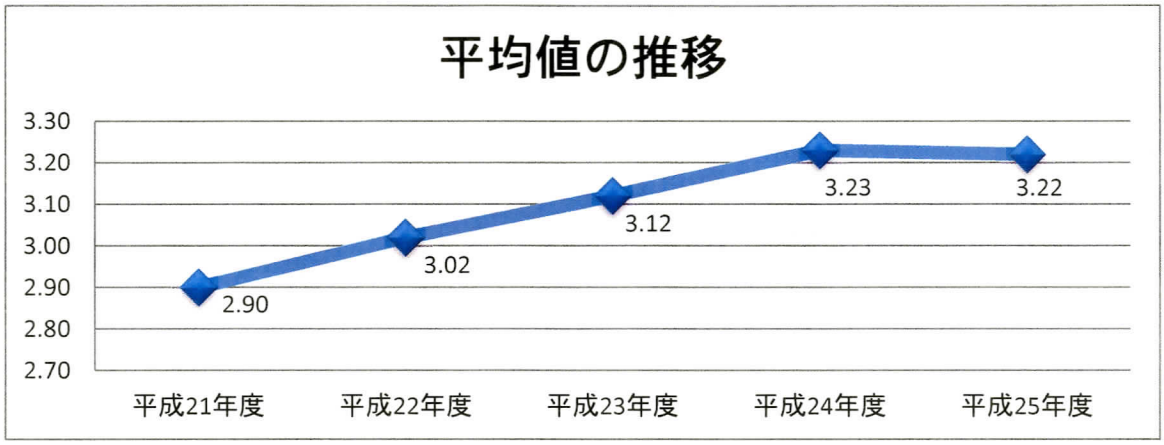


	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	平均
H２４年度	2.84	3.24	3.16	3.19	3.36	3.50	3.21	3.31	3.06	3.46	3.20	3.23
H２５年度	2.90	3.22	3.12	3.14	3.63	3.44	3.13	3.22	3.05	3.37	3.19	3.22

（3）過去 5 年間のアンケート結果の推移

図 3 は過去 5 年間の各質問に対する評価点数の平均値の推移を表しています。先に述べた様に、アンケートの質問内容が平成 21 年度のものと、平成 22 年度～25 年度のものとは異なっているため、5 年間の厳密な比較を行うことはできませんが、取り上げているデータが各質問全体の平均値であるため、学校の授業力を計る目安としては有効であると考えられます。図 3 からは、平成 24 年度までは毎年平均値を伸ばし、平成 25 年度は平成 24 年度のほぼ同水準を維持していることがわかります。

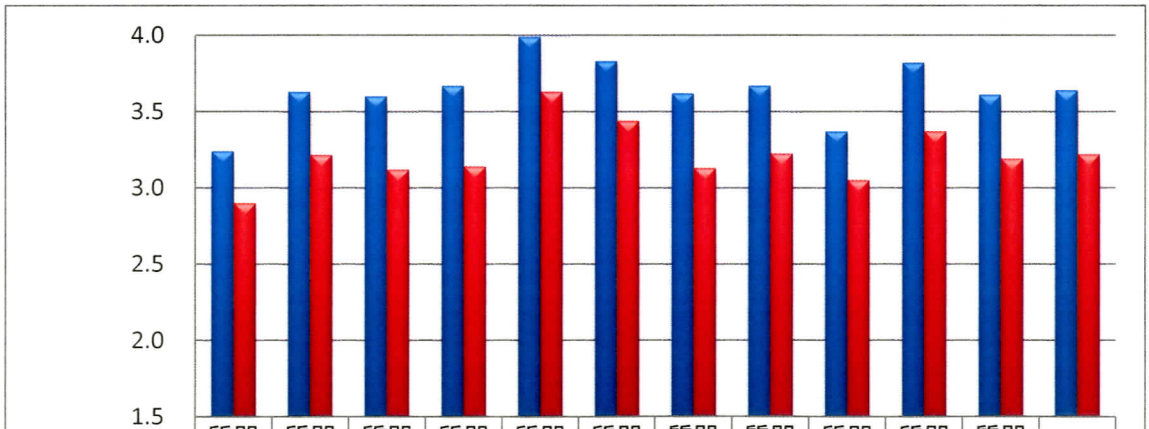
図 3．過去 5 年間の評価点数の平均値の推移（本科）



4．専攻科アンケート結果

図 4 は平成 25 年度における専攻科学生と本科学生の各質問に対する全科目分類の評価点数の平均値の比較を表しています。図 4 を見ると、専攻科における各質問に対する平均値は、全て本科の平均値を上回っていることが分かります。専攻科の授業は、本科の授業に比べて受講学生数が少なく、少人数で行われています。その結果、教員側は学生の理解状況をつぶさに把握することができ、いわば「きめの細かい授業展開」ができている状況からこの様なアンケート結果になったと推測することができます。

図 4．専攻科学生と本科学生の評価点数の平均値の比較



	質問1	質問2	質問3	質問4	質問5	質問6	質問7	質問8	質問9	質問10	質問11	平均
専攻科	3.24	3.63	3.60	3.67	3.99	3.83	3.62	3.67	3.37	3.82	3.61	3.64
本科全体	2.90	3.22	3.12	3.14	3.63	3.44	3.13	3.22	3.05	3.37	3.19	3.22

５．まとめ

平成 21 年度に教育企画改善室が発足し、FD に関わる様々な取り組みを行ってきました。図２、３を見る限りでは、これらの取り組みの成果が結果となって表れていると言えます。しかし、平成 25 年度の平均値は、平成 24 年度の平均値とほぼ同水準であったことから、引き続き、様々な研修体系を確立していくことにより、個々の教員の授業力の向上を図っていきます。また、昨今の教育の場では、学生の能動的学習が着目されており、学生参加型の授業体系についても様々な可能性を議論し、教員全体のコンセンサスを得る必要性があると考えられます。

平成 26 年 6 月
教育改善室